



国内では数少ない「音声外科医師」である原教授。音声障害に関しては人口の約3分の1が経験し、7パーセントが悩んでいるとのこと。



原教授は、硬性内視鏡による喉頭微細手術や喉頭がんに対するレーザー手術なども行なう。

耳鼻科を専攻したのは歌うことが好きだから。高校時代はバンドもやっていた。今でもドライブしながら好きな歌を歌うのが一番の気分転換です。



Otorhinolaryngology

原 浩貴 教授

Hiroaki Hara

■専門分野

音声障害、音声外科、いびき・睡眠時無呼吸症候群(SAS)、喉頭癌、嚥下障害

■認定医・専門医・指導医

日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医、日本睡眠学会認定医、日本頭頸部外科学会認定暫定指導医、日本気管食道科学会認定気管食道科専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医、日本耳鼻咽喉科専門研修指導医



ポリソムノグラフィー(PSG)を使った、睡眠時無呼吸症候群の入院検査。当科では、小型で身体抑制の少ない検査機器を使用し、週5日入院検査に対応している。

医療最前線

》》vol.53

川崎医科大学附属病院

耳鼻咽喉科

Report!

誠実に、熱意を持って 睡眠と声の疾患に取り組む

さまざまな危険を誘発する
睡眠時無呼吸症候群

「肥満や顎が小さい、扁桃が大きいといった現代人特有の要因から、近年、睡眠時無呼吸症候群の患者さんが増加傾向にあります。睡眠時無呼吸症候群の患者さんは、赤ちゃんから高齢者まで幅広いですね」と話す原浩貴教授。睡眠時無呼吸症候群や音声障害、音声外科、喉頭がんなどを専門に、当科の最前線で活躍している。

大人に関しては、やはり肥満の影響が大きいが、子どもではアレルギー性鼻炎の増加による鼻づまりが注目されているとのこと。大人の無呼吸による問題点を原教授はこう指摘する。

「大人の無呼吸では、二つの大きな問題が起きます。ひとつは、呼吸が頻繁に止まると、酸素不足のため動脈硬化や赤血球数増加などの反応が起り、結果血管が詰まりやすくなったり、心筋梗塞や脳血管障害の危険因子となります。もうひとつは、無呼吸のたびに自分では自覚できない目覚め(覚醒反応)があり、結果的に睡眠の質が著しく低下し、日中の眠気やそれによる交通事故のリスクが高まるといった要因にもなり得ます」。

加えて、交感神経の緊張が続くため、早朝からの高血圧や認知症との関連も近年では注目されているとのこと。大人も子どもも、いびきが毎日ある場合は、睡眠時無呼吸症候群を疑い、早めの検査を受けることが賢明だ。

実は身近に起こりうる
音声障害、いびきの悩み

国内では数少ない音声外科医師でもある原教授。「音声障害とは、声がかれて、いつも自分の声ではない状態をいいます。実に人口の約三分の一が経験していて、過度な飲酒や喫煙、カラオケなど、喉の使い過ぎがおもな原因とされています。当科には専門外来を設けていますから、風邪などで二週間以上出ない、声のトラブルが二週間以上続いているといった場合は受診をおすすめします」。

いびきについても原教授はこう警告する。「日本人男性の二〇パーセント、女性の八パーセントがいびきに悩まされています。いびきが原因で離婚したというケースもあります。適切な薬や治療法についてはぜひお気軽にご相談ください」。

最後に医師としての心得をこう語った。「医師に必要なのは誠実さと協調性、継続性、そして創造性。現状に留まらず、常に新しい治療法を探る開拓心、熱意も大切ですよ」。臨床、教育、研究が三位一体となった医科大学の附属病院である当院は、そういった意味でも理想的な環境という原教授。ひと言、ひと言に医師としての高い志を感じた。

お問合せ

川崎医科大学附属病院
倉敷市松島577
086-462-1111
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>